

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	13-309	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
A double-blind, placebo-controlled trial assessing the efficacy of varenicline tartrate for alcohol dependence. アルコール依存症患者に対するバレニクリン酒石酸塩の有効性の評価。二重盲検プラセボ対照臨床試験。		
執筆者		
Litten RZ ¹ , Ryan ML, Fertig JB, Falk DE, Johnson B, Dunn KE, Green AI, Pettinati HM, Ciraulo DA, Sarid-Segal O, Kampman K, Brunette MF, Strain EC, Tiouririne NA, Ransom J, Scott C, Stout R; NCIG (National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism Clinical Investigations Group) Study Group.		
掲載誌		
J Addict Med. 2013 Jul-Aug;7(4):277-86.		
キーワード		
アルコール依存症、バレニクリン、喫煙、断酒		
要旨		
目的 アルコール依存症の治療のためのバレニクリン (Chantix) の効能と安全性を評価する。バレニクリンは、 $\alpha 4 \beta 2$ ニコチン酸アセチルコリン作動薬であり、禁煙のための薬として Food and Drug Administration (FDA) によって承認されている。動物実験で、および大量飲酒し喫煙するヒトの小規模の試験では飲酒を減らした。本研究は、アルコール依存症の集団で喫煙者あるいは非喫煙者におけるバレニクリンの最初の多施設臨床試験である。		
方法 アルコール依存症の基準を満たしている男性と女性 (200 人) は、5 つの臨床施設で研究に組み込まれた。患者は、二重盲検でバレニクリンまたはプラセボとコンピューター化された行動介入を受けた。バレニクリンは、第 1 の週の間 2mg/d に漸増され、2 週~13 週の間維持された。		
結果 バレニクリン群は、まず週のパーセント大量飲酒日数 (1 番目のアウトカム) (調整された平均差= 10.4) が有意に低く、平均飲酒量、飲酒日の飲酒量、アルコールの渴望感などでプラセボ群 ($P < 0.05$) に比較して低かった。アルコール摂取に対する平均的治療効果は、喫煙者と非喫煙者の間で同様であった。バレニクリンは忍容性が高かった。有害事象は予期ができ、軽度であった。		
結論: バレニクリンはアルコール消費量と渴望感を有意に減らした。アルコール依存症治療のための潜在的な選択となる可能性を示した。		